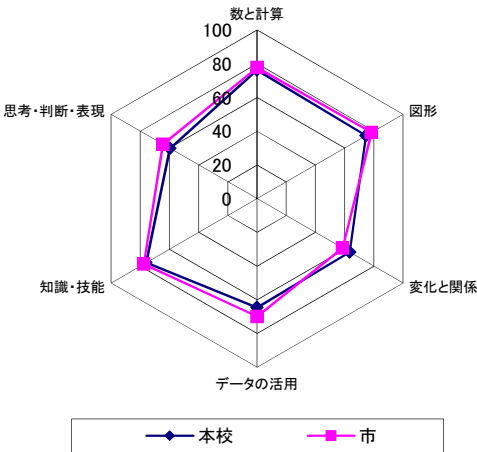


宇都宮市立桜小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	76.3	77.7	78.6
	図形	74.6	78.4	74.4
	変化と関係	63.4	58.7	53.0
	データの活用	64.6	69.9	57.2
観点別	知識・技能	75.9	77.5	74.0
	思考・判断・表現	59.6	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数のわり算、分数のかけ算・わり算の計算は市の平均正答率を上回った。 ●図を使って文章問題に合った式を立式する問題では、市の平均正答率を9.2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な四則の計算を確実に身に付けるため、継続して基礎的な計算練習をする。 ・文章問題の立式に慣れるために、簡単な文章や数字を使って式の意味を考えたり、立式したりできるようにし、問題に合った式を立てられるように指導していく。
図形	○ひし形や円の面積を求める問題では、市の平均正答率を上回った。 ●正多角形・合同・立体に関する問題では、市の平均正答率を下回った。三角形の外角の大きさを求める問題では、市の平均正答率を13.6ポイント下回った。	・具体物やデジタル教科書を利用して、図形のイメージを視覚的に捉えやすくすることで、作図したり図形の性質を調べたりする学習の理解を図る。繰り返し練習することで、習熟できるように指導する。 ・立体の体積を求める公式を覚えられるように、類似問題を解いたり、前学年の学習を振り返ったりする活動を取り入れて習熟を図る。
変化と関係	○単位量あたりの大きさ・割合に関する問題では、平均正答率が市と同等または上回った。 ○円グラフから割合を読み取る問題は、正答率95.1%で、市の平均正答率より5ポイント、上回った。	・習熟度別や少人数の形態での学習を取り入れることで、児童の理解度に応じた指導ができるようにする。 ・数学的な考え方や解答の仕方が記述式の問題にも触れ、定着するように指導する。
データの活用	○平均から全体の量を推測する問題では、市の平均正答率を5.6ポイント上回った。 ●ドットプロットから、最頻値と中央値を求める問題では、市の平均正答率を22.1ポイント下回った。	・用語の定着が不十分であるため、ドットプロットや度数分布表の読み取りの問題が市の平均正答率を下回ったと思われる。そのため、継続的に練習問題に取り組むようにしていくことで、用語の定着が図れるようにする。